

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。

使徒言行録 1 章 8 節

聖霊とは天におられる神様のもう一つの姿です。そして聖霊が降るとき、それは風となって私たちが感じるができるようです。ヘブライ語で書かれている聖書では、この聖霊と訳している単語は、「息」や「風」という意味があるそうです。つまり、神様からの「息」が「風」となって私たちを包み、力を与えてくださるというのです。当たり前のことですが、私たちは「息」ができないと苦しいですし、「息」をしないと生きていくことができません。

「息」とは生きるために欠かせないもの、神様からの「聖霊」・「息」も私たちが生きていくうえで欠かせないものではないでしょうか。キリスト教は「愛」の宗教と言われます。先日、静修で、2、3年生は神父様から「愛」とは相手を大切にすることというお話を聞きました。相手を大切にすること、このことを否定する人は居ないでしょう。しかし、私たちは日々の生活の中で勉強や仕事や人間関係など様々なことに追われ、心が疲れて、相手を思いやる余裕がなくなってしまいます。心の疲れとともに、息切れをして自分自身を大切にすることさえできなくなるかもしれません。そのようなとき、きっと神様は「息」を私たちに吹きかけてくれています。その「息」のかたちは、家族や友人など、あなたを大切に思う誰かからの優しい言葉や温かく包み込むような心遣いかもしれません。再びあなたが「息」をすることができるよう、力を与えてくれるでしょう。

「聖霊」という「息」は、あなたが大切であるという神様のメッセージであるとともに、私たちがお互いに相手を大切に生きていくこと、その力を持ち続けられるようにとこの聖句は励ましてくれています。

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。

使徒言行録 1 章 8 節